

各学校や地域における地域学校協働活動の推進を目的に、地域と学校の連携・協働に関する情報を発信する連携協働通信「架け橋」を発行します。

## 「地域と学校の連携・協働に関する研修」報告

1月14日（火）と16日（木）の2日間実施した「地域と学校の連携・協働に関する研修」には、学校運営協議会委員や学校・地域コーディネーター等の地域の方々、教職員（管理職や地域連携担当者等）、行政職員（区役所職員、教育委員会事務局職員）等、2日間合計で約200名の参加がありました。両日もグループ協議では、事例発表をもとに、自校における今後の連携・協働の方向性について、とても活発な意見交換が行われました。

事例発表していただいた4校の発表内容をご紹介します。

### 潮田中学校ブロック

3校（潮田中、潮田小、下野谷小）と地域が9年間で育てる子ども像を共有して、その実現に向け、3校合同の学校運営協議会を活用している。

9年間で育てる子ども像の共有

「夢をもって自立する子」

3校間の連携  
地域との連携

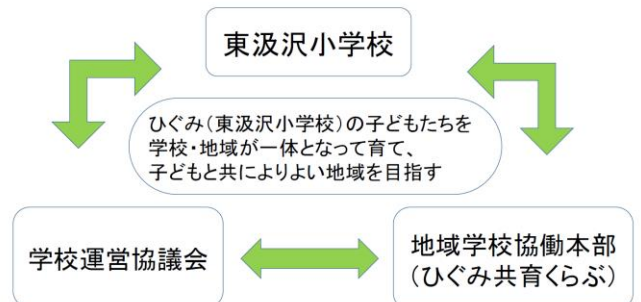


学校運営協議会の  
活用

実践例…学校課題に対して学校運営協議会が解決策を検討する。

### 東汲沢小学校

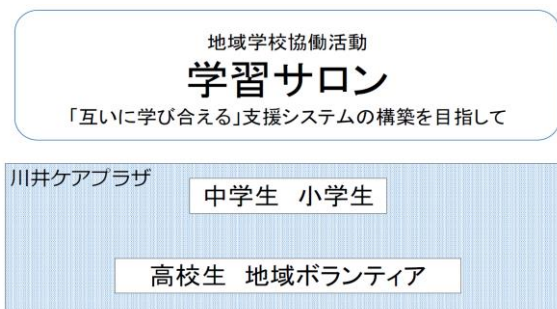
学校、学校運営協議会、ひぐみ共育くらは、WIN&WIN&WINの関係となって、子どもを育てている。



実践例…各学年の校外学習へ、ひぐみ共育くらは引率支援を行う。

### 都岡中学校

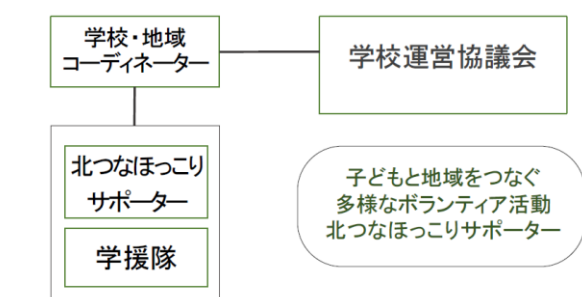
地域のボランティアや身近な高校生の力を活用し、小中学生の学びの場、多世代交流の場を、設けている。



実践例…月に2回水曜日の放課後、学習サロンを川井地域ケアプラザで実施している。

### 北綱島小学校

地域全体で学校教育を支援する体制作りを推進し、教員が子どもと向き合う時間の増加、地域の教育力の活性化を図っている。



実践例…各学年の安全防災学習に、北つなほっこりサポーターや学援隊が支援している。

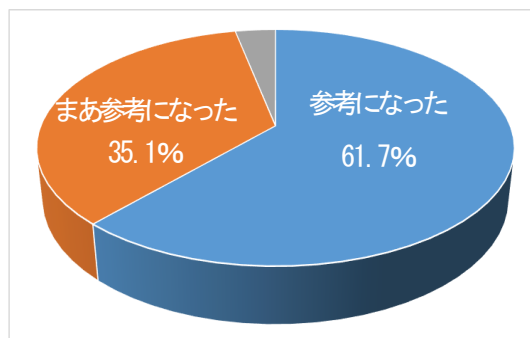
## 参加者アンケートより

アンケートから、4校の事例発表が出席された皆様の参考になったことが分かりました。



事例発表を受けてのグループ協議では、意見交換が活発に行われました。

事例発表は、参考になりましたか？	
参考になった	95校
まあ参考になった	54校
あまり参考にならなかった	5校
参考にならなかった	0
合計	154校



### 参加者アンケートより抜粋

- ・9年間を見通して小中で連携していくこと、地域とも同じ方向性で取り組んでいかないといけないと、改めて思った。  
(小学校 管理職)
- ・学校側から考えると心強いサポートや教育の場となることは間違いなかった。  
(中学校 管理職)
- ・小中ブロック協働本部を立ち上げたばかりなので事例が参考になった。  
(中学校 地域ボランティア)
- ・具体的な事例紹介で自分たちがすべきことが見えた。  
(小学校 コーディネーター)
- ・それぞれ地域性があり事情が違うけれど、その地域に合う取組に努める方の生の声が聞けて参考になった。  
(中学校 コーディネーター)
- ・学校運営協議会とコーディネーターの役割の理解が深まった。不登校児童の居場所としても可能性があると感じた。  
(スクールソーシャルワーカー)

## まとめ

### 4校の取り組みから見てきたこと

学校教育目標を実現するためには、学校と保護者・地域が、目指すべき将来の子ども姿を共有することが大切です。学校と保護者・地域が進む方向を一致させること、常に子どもを中心に主体的に関わることが、持続可能な活動になるためのポイントです。



## 「学校運営協議会設置校 教職員・委員研修会」のお知らせ

<日時> 令和2年2月13日(木) 15:00~16:45 花咲研修室 201-203

<目的> 「学校運営協議会」と「地域学校協働本部」による一体となった連携・協働体制づくりに向けて、各校の今後の方向性を明らかにする。

### <主な内容>

○横浜市における「学校運営協議会」の在り方

- ・ 学校運営協議会のより一層の充実のためのポイント
- ・ 事務手続きの変更点の説明



○情報交換「これからの学校運営協議会の在り方を考える」

- <対象>
- ・ 管理職
  - ・ 教職員
  - ・ 学校運営協議会委員



☆本研修会は、学校運営協議会の設置校が主な対象となりますが、

**設置を予定している未設置校の参加も可能です。**



学校便利帳で、令和2年1月10日(教学第1449号)に募集案内を発送しています。どうぞご確認ください。

## 第5回学校・地域コーディネーター(地域学校協働活動推進員)養成講座

教育委員会では、地域と学校の連携・協働を推進するために、学校と地域を繋ぎ、総合調整を行う「学校・地域コーディネーター(地域学校協働活動推進員)」の養成講座を開催しています。本講座は、推薦元の学校で学校・地域コーディネーター(地域学校協働活動推進員)として活動することを目標にプログラムを組み、年間5回の講座を行っています。2月13日(木)に開催される今年度最後の養成講座では、24のグループが自分たちで考えた地域学校協働活動のプログラム案を発表します。今回の講座は、本年度の受講者だけでなく、すでに養成講座を受講された修了者の方も、教職員の方々も参加可能です。今後の地域連携協働活動の充実に向けて、皆様の参加をお待ちしています。



### <プログラムのテーマ>

- 地域学校協働活動(学校支援活動)
- 地域学校協働活動(土曜日・放課後等の支援)
- 地域活動
- ネットワーク



学校便利帳で令和2年1月10日(教学1445号)に募集案内を発送しています。

### <学校・地域コーディネーターの兼任について>

本年度より、地域人材がより共有しやすくなって学校間の連携が深まり、地域学校協働活動がより推進していけるように、「学校・地域コーディネーター」は、小中一貫教育推進ブロック内において、複数校を兼任できるようになりましたが、次年度からは、さらに次のように変更いたします。

「学校・地域コーディネーターは、複数校を兼任できる。」

これにより、さらに地域学校協働活動が各校で充実していくことを願っています。詳しくは、令和2年1月17日（教学第1480号）に発出した文書をご確認ください。



※令和2年度より、複数校で学校・地域コーディネーターを兼任される場合、複数校から謝金を受け取ることが可能となります。ただし、1校ごとの謝金の上限は6,000円です。

### <放課後学び場事業について>

「放課後学び場事業」とは、大学生や地域住民等のボランティアの協力による、学習支援が必要な小学生及び中学生を対象とした放課後等の学習支援活動に対し、教育委員会が活動費を支援する事業です。支援額は令和元年度は1校あたり上限10万円（令和2年度は11万円の予定）で、実施場所は学校だけでなくコミュニティハウスや地域ケアプラザも可、実施時間帯は平日の授業外の時間のほか、土曜日、日曜日、祝日、長期休業中も可能です。実施回数に決まりはありません。令和元年度は、小学校では30校、中学校では58校が実施しています。

令和2年度の募集案内は、2月中旬ごろ発出予定です。たくさんの学校からの申し込みをお待ちしています。

**教職員の方々だけでなく、学校運営協議会委員、学校・地域コーディネーターや地域協力者の方々にも、ぜひ「架け橋」の周知をお願いします！！**